

1 単元名 世界各地の人々の笑顔と環境

2 単元について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、小学校社会科において、地理的分野の学習に取り組んできた。中学校社会科における地理的分野の学習を前に、地理の学習に対する意識調査（令和5年4月実施、茨城大学教育学部附属中学校第1学年4組36名対象）を行った。以下は、その設問の一部と回答の内訳である。

	楽しい	どちらかと言えば 楽しい	どちらかといえば 楽しくない	楽しくない
問1 地理を学ぶことは楽しいですか。	16名	15名	5名	0名
問2 問1の質問に関して、どのような点が楽しい、または楽しくないですか。 (主な理由を抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な国の「今」を知れる。</li> <li>・知ったことが役に立つ時があるから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会は苦手だけど話し合いとかが楽しい。</li> <li>・暗記が大変。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜその国の勉強をしているのか分からない。</li> <li>・暗記が苦手。</li> </ul>	

問1の設問に対して、「楽しい」と感じる生徒が16名に対し、「どちらかと言えば楽しい」「どちらかと言えば楽しくない」「楽しくない」と、地理を学ぶことに対して抵抗感や苦手意識がある生徒は20名であった。それぞれの理由を分析すると、前者は、自分の国や外国について新しく知ることができることは今後の生活をより良くするために生かせると考える一方、後者は、地理の用語や国の特徴を覚えることに対して、抵抗感をもっているという傾向を見付けることができる。地理を学ぶことを楽しいと感じている生徒もそうではない生徒も共通していることは「地理を学ぶこと」は「地理を知る・覚える」と考えており、教科書に載っている国名などの情報を覚えることと捉えている。地理の学習とは、現在、世界や日本の各地で起きていることを様々な視点から読み取り、それらの取組みを生かしたり、改善したりすることでさらにより良い社会を創るための資質・能力を育成するものである。地理を「知る・覚える」という行為はなぜ必要なのか、この国や用語を「知る・覚える」ことはなぜ必要なのかを生徒が考え、現在の生活環境が出来上がるまで、過去に行われた工夫を知るとともに、自らの生活との関わりを考えるとという気持ちをもたせることができれば、地理を学ぶことへの肯定的な気持ちがより生まれやすくなると思われる。

(2) 単元観

本単元は中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編の、地理的分野(1)「世界の様々な地域」の中の「世界各地の人々の生活と環境」を受けて設定している。世界各地における人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、逆に人々の生活が、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを多面的・多角的に考察し、人々の生活の特色や変容の理由を表現できるようになることをねらいとしている。

本単元では世界各地の環境と人々の生活のつながりについて学んでいく。人々の生活は気候や雨量などの自然的条件の違いのみで決定されるのではなく、歴史的背景や宗教などの社会的条件の違いも影響する。さらに、食生活などの人間社会の営みが自然環境に影響を与えることもあり、両者は相互に関係し合っていることを捉えさせたい。また、同じ地域の過去と現在の生活を比較して、その変化に着目し、人々の生活は過去からの積み重ねもあるが、他文化との接触や新しい技術の導入などから、可変的なものであることにも気付かせたい。これらのことを理解するために、世界各地の人々の生活の特色や変容の要因を、自然及び社会的環境と人間社会の営みとの関係を多面的・多角的に考察し、表現させていく。そして、生徒自身が自らの生活経験では体験したことのない価値観や生活様式について考え、世界の広さと多様性を実感することを通して、知らないことや当たり前ではないことを知ることを楽しむことを通して、「楽しい」と思えることをねらいとした。

### (3) 指導観

指導にあたっては、世界各地の家族写真を活用し、写真が撮られるまで、どのように生活環境が創られてきたのかを調べ、推測する活動を通して、人々と環境のつながりから地理的環境の構築について考えさせたい。

日本での生活経験が基盤となっている生徒たちにとって、家族写真から読み取ることができる情報は不便に見える生活環境のものもある。しかし、その価値評価は、あくまで日本での生活経験が長い自分たちである。単元全体に係る視点で実際にその場で生活する人々の気持ちは同じであるかという問いを投げかける。それぞれが充実した生活を送るには環境と密接に付き合う人々の工夫がある。さらに、伝統として残っているしきたりが現代で受け継がれていることや、現代の技術など新たな要素を基に再構築されたことも混在するなどして、世界各地の今の生活がある。この過程や変容の理由を生徒は調べ、考える活動を通して、世界各地の生活は環境、人間、新しい技術など様々な要因の蓄積と人々のより良い生活への願いと工夫で創られたものであるということ学ぶ。その上で、地球温暖化など様々な諸問題を抱える未来をより良いものに創造していく生徒たちの基盤を育成していきたい。

### 3 単元の見目標

- 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解することができる。 [知識及び技能]
- 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現することができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 人々の生活と自然及び社会的条件の関係に関する知識・技能を主体的に身に付けたり、写真資料から読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現しようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

### 4 単元の学びの価値とそれを実感させるための手立て

#### (1) 単元の学びの価値

#### みんなの笑顔を創るっておもしろい!

社会科が考える学びの価値は「社会を創るっておもしろい!」である。前述の通り、地理は国名や用語をただ覚えるのが目的ではない。本単元は、環境と人々のつながりから、より良い生活環境が創られた過程を調べたり、推測したりする。その中で国名や用語が登場するが、「覚える」のではなく思考の材料として「生かす」という視点をもたせたい。

そこで、本単元では、資料から読み取ったことを多面的・多角的に推測し、調べて知ったことを生かし、世界各地の生活環境の創られ方を紐解いていくことで国や用語を解き明かす楽しさや、社会を創るおもしろさを実感させたい。

#### (2) 単元の学びの価値を実感させるための手立て

##### ① 世界各地の家族写真を用いる発問や教材の工夫

本単元では世界各地の笑顔の家族写真を中心に組み立てていく。家族の衣服や写真の背景に見えるものからは生徒にとっては馴染みのない異文化のものも多くある。その中には、生徒たちから見ると不便な様子に見えるものもある。しかし、写真に写っている家族は一概に笑顔であることから、生徒自身の価値観や感覚はあくまで日本での生活経験が基盤となっているものであり、そのような環境の写真に写っている家族との違いを考えさせたい。「なぜ、このような環境でも笑顔なのだろう」の問いから生徒は探究的に学んでいき世界各地の社会の創られ方を知り、価値観を広げられるようにしていきたい。

##### ② 世界各地の笑顔の創り方を考察したり構想したりする学習活動の充実

本単元で使用する家族写真は気候区分の「寒帯・冷帯・温帯・熱帯・乾燥帯・高山気候」写真を取り扱う。どの地域でも笑顔で人々が写っているのは生活環境に順応し、満足のいく生活を送れているからだと仮定し、笑顔が創られた理由を自然環境や社会的環境から紐解いていく。調べていく中で、生徒たちは世界各地でより良い生活が創られる条件や変容を学び、人と自然が相互に作用し合って現代のより良い生活環境が創られたということに気付かせたい。そして、先人たちの取組から、将来、自分たちも社会を創る一員となることへの期待感を生徒に味わわせていけるようにしていく。

5 指導と評価の計画（7時間扱い）

時間		○…評価規準【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的	学習内容・活動	○指導上の留意点 ◎規準を実現するための手立て ★単元の学びの価値を実感させるための手立て
次	時						
1	1			●		○ 世界各地の家族写真からどこを国かを予想する活動を通して、単元の学習に見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">単元課題 みんなが笑顔の世界はどうやって創られたのだろう。</div>	★ 生徒の生活経験からして決して満足とは言えない様子が写っている写真の家族も笑顔であることに触れ、世界各地ではどのような生活が営まれているのか、それはなぜなのかを紐解いていく学習の見通しをもたせる。 ◎ 写真の家族に目が行きがちになることが予想されるが、風景にも触れることを促すなど、多様な面で気付いたことをまとめられるようにする。
	2			●		○ 「環境とは」という問いから、自然的環境に加えて社会的環境という概念があることを理解する。 ○ 調査項目（気候、土地の様子など）を挙げる。	★ 探究活動に向けて、「環境」というテーマから単元課題へアプローチしていくことを捉える。 ◎ 「環境」という言葉には自然的な要素が推測されやすいが、人々の生活などの社会的な要素も相互に結びついていることを気付けるようにする。
	3	① 宗教のように人々の生活には自然環境以外のもも影響を与えていることを理解している。【ワークシートの記述の観察】	①			○ 世界的に広がる宗教の分布や人々の生活に与えている影響を把握することで、自然環境以外にも人々の生活に影響を与えるものがあることを理解する。	★ 探究活動に向けて、自然環境以外にも人々の生活には影響を与えるものがあるということ捉える。 ◎ 日本とイギリスの写真資料から気候区分に属している国同士でも生活様式に違いがあることに気付けるようにする。
	4・5	① 課題解決のための探究活動に粘り強く取り組んでいる。【学習活動の観察、ワークシートの記述の観察】			①	○ 調べたい家族の必要な情報を収集し、単元課題の解決に向けて考察を進めていく。	★ 調べたことと人々の笑顔を組み合わせ考察させることで、自らの生活経験や感覚だけでなく、それぞれの土地に住む人にもそれぞれの価値観が存在していることに気付かせる。 ◎ 第2時で推測の理由として挙げられた項目（気候、土地の様子などが予想される）を示し、単元課題について自分なりの解答をもてるようにする。

① 単元課題の解決の過程の中で、世界各地の人々と環境の結びつきについて考えている。

【学習活動の観察、ワークシートの記述の観察】

①

1 前時までには調べた内容を振り返り、学習課題を確認する。

なぜみんな笑顔なのだろうか。

- ・その場所で生活することが幸せだから。
- ・毎日が楽しいから
- ・自分たちに合った生活を送れているから。

2 前時までには調べた内容を出し合い、各地域の共通点を考える。

- ・食べ物は各地域で取り上げられている。
- ・古くから残るものと人々の手によって今の形になったものがある。

3 学習課題について考えをまとめる。

- ・人々は気候などの生活様式に合わせた生活を各地で営んでおり、古くから創られた生活に満足をしているから笑顔なのだと考えられる。

4 外国の方の話を聞く。

5 「みんなが笑顔の世界はどうやって創られたのだろう。」という視点から本時を振り返る。

- ・古くからその地域の環境と人々が共存していく上で様々な工夫のもとみんなが笑顔で暮らすことができる場所が世界中に創られたと考えることができた。

★ 第2時でまとめた「環境」の定義を振り返り、学習課題解決に向けた大まかな考え方を捉える。

○ 調べて分かったことを踏まえて自由に意見を述べさせ、賞賛することで調べたことから論理的に推測することが大切だと認識させる。

○ ウェビングマップ上に意見を出させ、環境は異なっても食べ物や住居など共通で挙がるものがあることから、各地域の環境に応じて満足のいく生活を作っていることに気付かせる。

○ 人間によって生活の様式が変わっているものがあることにも触れることで、自然生活に合わせるだけでなく、人間の手によって自然環境にも影響を与えていることを認識させる。

★ 出し合った意見や、それに対しての対話を通して、各国のそれぞれの環境と人々がより良く結びついて現在の笑顔につながっていると気付くことができるようにする。

○ ALT から生い立ちの話を聞くことで、自分がまとめたことが実際に世界各地で行われていることを実感する。

◎ 人々は環境と相互に結びつきながら、より良い生活を目指し、工夫を重ねながら笑顔溢れる生活を創っていることに気付かせる。